

2015年次

とうしょ 日本島嶼学会奥尻島大会

— 島嶼学からみた奥尻島 —

来たる9月5日(土)、午前9時から奥尻町海洋研修センターにて2015年次日本島嶼学会(以下、本学会)が開催されます。本学会は、1998年の設立以来、日本の離島や世界の島嶼をテーマに研究を行い、その成果を地域に還元する取り組みを続けてきました。これまでの年次大会は、主に関東以西の離島で開催されてきましたが、このたび北日本地域で初めて、この奥尻島で開催される運びとなりました。

午前の部では、本学会会長の長嶋俊介名誉教授(鹿児島大学)による基調講演「島嶼学からみた奥尻」をはじめ、北海道立総合研究機構・地質研究所による「古代の津波痕跡が語ることー奥尻島の津波堆積物調査結果からー」などの一般公開講演会が予定されています。また、奥尻島が抱えている少子高齢化・過疎化の進行といった課題について、日本の他の島嶼地域との比較の中で考える「奥尻セッション」も予定されています。午後の部では、本学会会員による日本および世界の島嶼に関連した研究発表が行われます。ヨーロッパ島嶼地域の自治の現状、太平洋島嶼地域における人と自然の関係など、多様なテーマで最前線の研究成果が発表される予定です。

今回の年次大会は、奥尻の魅力を見つけ、活かし、繋いでいくための良い機会になるのではないかと存じます。夕方からは、会員と奥尻島の方々との交流を深める場となるよう立食形式の懇親会を開催します。島民の方々の学会参加費は「無料」となっておりますので、ぜひ気軽にご参加ください(懇親会の方は5,000円の会費を予定しています)。皆さまのお越しを心からお待ちしています。

※島嶼(とうしょ)とは、大小さまざまな島のこと。

【本学会に関するお問い合わせ先】 奥尻町役場地域政策課政策推進係 ☎2-3403

北海道南西沖地震から二十二周年

～続く追悼の祈り～

1993年7月12日、22時17分に発生したあの大地震。崖崩れや大津波、火災といった甚大な被害に見舞われた奥尻町。あれから22年の歳月が流れました。7月12日(日)、青苗岬公園では、有志が1,000本のろうそくに火を灯し祈りを捧げたほか、灯籠流しが行われました。



薬物乱用防止指導員

齋藤伸彦さんに10年表彰

薬物乱用防止指導員は、各都道府県知事から委嘱を受け、覚せい剤・危険ドラッグ・大麻等の薬物乱用を根絶することを目的に地域の啓発活動に取り組んでいます。

齋藤伸彦さんは、登校中の児童・生徒に薬物乱用防止を呼びかけるなど、10年の長きにわたり町内の啓発活動に積極的に取り組み、今回の表彰となりました。

また、今後は9月に奥尻高等学校にて薬物乱用防止の講話も予定されています。



マイナンバー制度がはじまります



マイナンバーキャラクター
マイナちゃん

- ・住民票を有する方に、平成27年10月以降、12桁のマイナンバー（個人番号）が通知されます。
- ・平成28年1月からは、税の手続きや年金、医療保険、雇用保険などの社会保障の手続き、また、災害対策の分野でマイナンバーの利用が開始されます。
- ・個人番号カードは本人確認に利用できる公的身分証明書です。市町村に申請することで、平成28年1月以降に交付されます。（無料で取得できます）



▲ 7月13日 交通安全啓発の様子

「交通安全」を願って

奥尻町交通安全協会（会長：工藤 勇）では、7月11日にファミリーパーク運動広場で、交通安全啓発グラウンドゴルフ大会を、また、7月13日には赤石地区潜水部会付近で、夏の交通安全運動期間中におけるシートベルトの着用とスピードダウン・安全運転の呼びかけを行いました。

「ゲートボール競技の部」で奥尻町チーム優勝!!

7月13日、14日にせたな町で開催された檜山管内スポーツフェスタ「ゲートボール競技の部」に、奥尻町から2チームが参加しました。準決勝では同町対決となりましたが、奥尻町Aチームが決勝戦へ進出し、対今金町戦では序盤の追う展開から逆転し15-14の僅差で見事優勝を飾りました。



奥尻クラブ、全国大会へ!!



高松宮賜杯第59回全日本軟式野球大会南・北海道大会が、去る7月3～6日まで函館市と北斗市を会場に開催され、「奥尻クラブ」（監督：小柳 透）が函館地区から推薦を受け出場し2部優勝の栄冠に輝きました。

今後は10月16日から香川県で行われる全国大会に出場が決まっており、小柳監督は「奥尻島をアピールするためにも上位進出を狙う！」と抱負を語っていました。

身に覚えのない請求書・督促状などは、相手方に確認の電話をしないようにし、家族に確認しましょう。《夏の暴力追放運動実施中 7/21～8/20》

第39回奥高祭開催される

7月4日、5日の両日奥高祭が開催されました。今年は好天にも恵まれ、前夜祭では伝統の行灯行列が元気に青苗地区を練り歩き、町中に若さいっぱいのエネルギーがふりまかれました。



渡島・檜山地方税滞納整理機構

平成26年度の徴収実績と平成27年度の引受状況について

渡島・檜山地方税滞納整理機構は、渡島・檜山管内（函館市を除く17市町）の地方税の滞納額の縮減を図るために市町に代わり、差押え・公売等の強制的な滞納整理を行っている一部事務組合です。

平成16年に設立以来今年で12年目となり、納税に誠意のない方に対しましては、毅然とした態度で対応し、滞納整理を進めてまいりました。

平成26年度は、各市町から引き受けした271人（法人含む）、2億7,145万円の処理困難な事案に対して、預貯金・給与・生命保険・売掛金等の債権の差押を中心とした滞納処分を531件実施し、債権の発見に至らない事案については、捜索による動産の差押を9件執行して、差押えた物件をインターネット公売で換価いたしました。

その結果、最終収入額については1億5,036万円、引受額に対する徴収率は55.39%となっております。

平成27年度も269人（法人含む）、2億9,230万円の滞納事案を引き受けし、粛々と滞納整理を進めているところです。

今年度は、更に取り組強化して滞納整理を進め、収入確保はもちろんのこと、納税されている方と納税に誠意のない方の税負担の公平性を図ってまいります。



「社会を明るくする運動」及び 「青少年の非行・被害防止道民総ぐるみ運動」

去る7月3日に第65回「社会を明るくする運動」内閣総理大臣メッセージが、函館保護観察所 小玉勝康 所長から、また、「青少年の非行・被害防止道民総ぐるみ運動」北海道知事メッセージが、檜山振興局保健環境部 沼田裕司 環境福祉長からそれぞれ伝達されました。

